

## 金沢大学における英語化の取り組み

金沢大学 理工研究域 電子情報通信学系  
教授  
山 根 智

### 1. はじめに

平成 26 年度に、金沢大学はスーパーグローバル大学 (SGU) 創成支援事業に採択されました。SGU においては、10 年後、すなわち平成 35 年度に、

- (1) 英語による授業の実施率を学士課程において平均で 50%、
- (2) 英語による授業の実施率を大学院課程において 100% (例外科目を除く)、
- (3) すべての学類において英語のみで卒業できるコースの設置

という目標値を掲げました。この目標値は、他の採択大学に比べても高い目標であり、第三期の中期目標・中期計画において第三の重点支援タイプを選択した金沢大学の今後の方向性を左右する重要な意義をもつものと考えられます。

本稿では、まず、金沢大学の授業英語化推進のための制度、次に、すべての学類において英語のみで卒業できるコースの設置、最後に、英語化の拡大に向けての教員と学生への支援を説明します。

### 2. 授業英語化推進のための制度

授業の英語化には工数を必要としますので、授業科目の英語化を推進するために、授業の英語化を行った教員に対する手当の支給を実施しています。

また、平成 30 年度は、英語による授業の教育効果の検証のために、授業アンケートを実施しています。参考までに、授業の英語化に関するアンケートの抜粋を掲載します。

- (1) まず、授業の英語化率を質問して、英語化されたものが何かを質問します。
- (2) 次に、聴講学生の英語のスキルを質問して、普段の英語の学修時間と英語化された授業の予習復習時間を質問します。
- (3) 最後に、英語化された結果、授業内容の理解度の変化を質問します。

とりわけ、(3) の英語化されたことによる授業内容の理解度の変化の質問は重要です。英語化により授業の理解度の低下が予想され、その対処が英語化においてきわめて重要です。例えば、授業で重要な事

#### 授業の英語化に関するアンケート (抜粋)

~~~~~  
各問の該当する事項 1 つに  を付してください

問 1. この授業の総合的な英語化率はどれくらいでしたか

- 80%以上  79%~60%  59%~40%  39%~20%  
 19%以下

問 2. この授業の中で英語が用いられていたものを教えてください (複数選択可)

- 教科書  参考書  配布資料  提示資料  レポート・小テストなどの課題  試験

問 3. あなたの英語の語学レベルを教えてください (外部検定試験スコアもしくは自己評価)。

- 外部検定試験スコア (試験: スコア: )  
 上級 (難易度の高い語彙・文法を習得し、ある程度の日常会話をスムーズにこなす難易度の高い文章を読み書き。)  
 中級 (基本的な語彙・文法を習得し、苦勞を伴いながらも日常会話をこなすことができ、簡単な文章を読み書き。)  
 初級 (初歩的な語彙・文法を習得し、最低限の意思疎通ができる程度、平易な文または短い文章を読み書きできる。)

問 4. 授業以外の普段の英語の学修時間は、1 週当たり概ねどれくらいですか?

- 7 時間以上  5~6 時間  3~4 時間以上  1~2 時間  
 ほとんどしていない

問 5. この授業の予習復習にかけた時間は、1 週当たり概ねどれくらいですか?

- 7 時間以上  5~6 時間  3~4 時間以上  1~2 時間  
 ほとんどしていない

問 6. この授業が英語で実施されことによって、授業内容の理解度は変わったと思いますか (複数回答可)?

- 英語のほうがより良く理解できたと感じる  
 英語でも日本語でも理解度は変わらなかったと感じる  
 英語であったため、あまり理解できなかったと感じる  
 日本語による補講、対訳の提示などがあればより理解できたと思う  
 日本語で実施されていてもあまり理解できなかったと思う

柄や理解が難しい事柄は、日本語と英語の両方で説明したり、図を用いてわかりやすく説明するなどが期待されます。

### 3. すべての学類において英語のみで卒業できるコースの設置

金沢大学は、表に示すように、人間社会学域、医薬保健学域、理工学域の3つの学域からなります。人間社会学域では、6学類があり、すべての学類で英語のみで卒業できるコースを設置し、理工学域では7学類があり、すべての学類で英語のみで卒業できるコースを設置する予定です。医薬保健学域では、他の学域と異なり、資格取得が最重要であり、英語化に関しては慎重になる必要があり、英語化への対応を議論しています。

#### 理工学域（7学類）

##### 数物科学類

- 数学コース
- 物理学コース
- 計算科学コース

##### 物質化学類

- 化学コース
- 応用化学コース

##### 機械工学類

- 機械創造コース
- 機械数理コース
- エネルギー機械コース

##### フロンティア工学類

- 知能ロボティクスプログラム
- バイオメカトロニクスプログラム
- マテリアルデザインプログラム
- 計測制御システムデザインプログラム
- ヒューマン・エコシステムプログラム
- ナノセンシングプログラム

##### 電子情報通信学類

- 電気電子コース
- 情報通信コース

##### 地球社会基盤学類

- 地球惑星科学コース
- 土木防災コース
- 環境都市コース

##### 生命理工学類

- 生命システムコース
- 海洋生物資源コース
- バイオ工学コース

#### 人間社会学域（6学類）

##### 人文学類

- 心理学コース
- 人間科学コース
- フィールド文化学コース
- 歴史文化学コース
- 言語文化学コース

##### 法学類

- 公共法政策コース
- 企業関係法コース
- 総合法学コース

##### 経済学類

- エコノミクスコース
- グローバルマネジメントコース

##### 学校教育学類

- 教育科学コース
- 教科教育学コース

##### 地域創造学類

- 福祉マネジメントコース
- 環境共生コース
- 地域プランニングコース
- 観光学・文化継承コース

##### 国際学類

- 国際社会コース
- 日本・日本語教育コース
- アジアコース
- 米英コース
- ヨーロッパコース

#### 医薬保健学域（4学類）

##### 医学類

##### 薬学類

##### 創薬化学類

##### 保健学類

- 看護学専攻
- 放射線技術科学専攻
- 検査技術科学専攻
- 理学療法学専攻
- 作業療法学専攻

### 4. 英語化の拡大に向けての支援

金沢大学は英語化の拡大に向けて、以下のような教員及び学生への支援を実施しています。

#### (1) 教員への支援

##### ①教員の英語力強化：

教員の英語による教授力を強化するために、タフ

ツ大学と連携して教員を対象とした英語プログラムを開設しています。また、British Council との連携による FD 研修を実施しています。

#### ②英語教授力の優れた教員の採用：

英語による教授力に優れた教員を確保するために、教員公募の際に、英語による授業担当を必須としています。また、外国人教員採用に適した人事制度および採用後の支援体制を整備しています。

#### (2) 学生への支援

##### ①英語教育の充実：

共通教育の英語科目を大幅に改革して、学生の英語力の向上を図っています。また、平成 28 年度入学生から TOEIC 受験を義務付けており、英語学習アドバイザーを導入しています。

##### ②海外派遣の推進：

学生向けの海外派遣プログラムを拡充して、海外派遣の奨学金を増加しており、留学前プログラムも実施しています。

##### ③キャンパスのグローバル化推進：

留学生宿舎を増加させたり、附属図書館に国際交流スタジオを整備しています。

## 5. まとめと今後の展望

本稿では、授業英語化推進のための制度およびすべての学類において英語のみで卒業できるコースの設置について概観しました。

授業を英語で行うことの目的は、グローバル人材を育成することであり、英語化の意味は、学生に、(1)自分の専門分野の内容を英語で理解させ、英語でそれを他者に伝えることができるようにさせることですし、また(2)授業を通して英語によるコミュニケーション能力を向上させ、それを将来の職場において活用できるようにさせることであることは、疑問の余地はありません。

しかし、授業の英語化により、理解度が低下するという問題があり、教員は英語化された授業の教授方法を検討することが今後の最大の課題です。